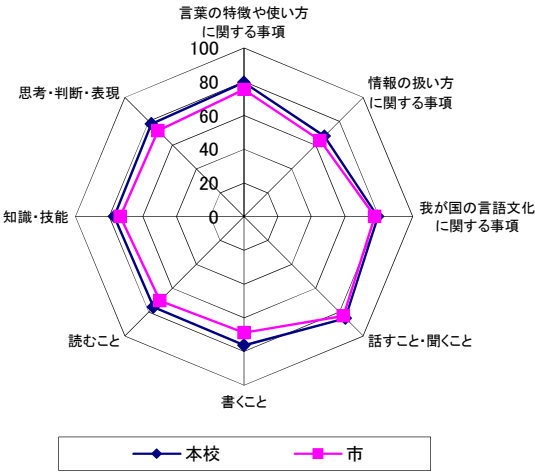


宇都宮市立河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.6	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	67.5	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	79.4	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	85.1	83.2	81.6
	書くこと	76.3	68.9	58.6
	読むこと	75.9	70.5	65.7
観点別	知識・技能	77.0	73.4	66.2
	思考・判断・表現	77.8	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

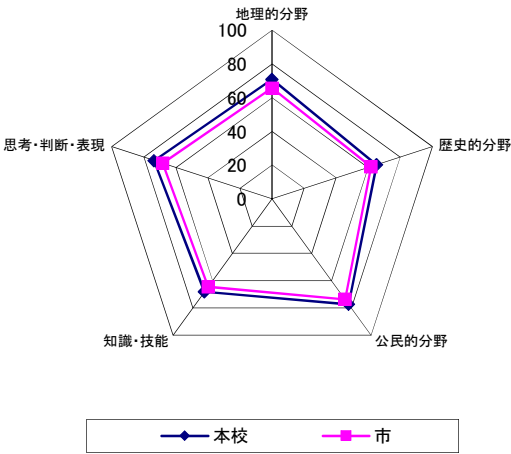
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市平均を4.2ポイント上回っており、特に漢字の読みに関しては全国・市ともに大きく上回っていた。全国平均が36.1%である「催し」に関しては、本校は71.1%と、日々の学習の成果が大きく表れていた。漢字の書きに関しても全て平均を超えているため、基礎・基本が定着しているように思われる。 ●敬語の分野については、90%以上の正答率を超えている問題もあったが、市平均を少し下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 漢字の読み書きに関しては、全ての問題で市・全国ともに上回っていた。しかし、80%を超えていない問題もあった。ICTを取り入れた授業が進む中で、どの教科でも「漢字を書く」ということが減っている。その中でも国語においては、どの単元であっても、書くこととICTの両立を図っていきたい。 また、敬語は小学校から中学校にかけて学んでいる重要な単元である。社会に出た際も必ず必要であるものなので、更なる定着を図りたい。
情報の扱い方に関する事項	○市平均を3.6ポイント上回っていた。「情報と情報を関連付ける」問題に関しては、特に平均が高かった。記述であっても選択式・短答式ともに上回っており、情報の扱い方に対する基本的な知識が身に付いているように思われる。 ●平均は上回っているものの、実際の数値を用いて記述する内容の平均は約40%であるため、客観的な根拠を用いた文章の構成に課題がある。	情報の扱い方に関する問題は全問題で市の平均正答率を超えているため、ある程度の知識は定着しているように思われる。ICTの利用が進む中で、公民などの他教科とも関連させて、授業等で伝えていきたい。 また、作文指導の際に、客観的な事実、特に数値を用いた表現を取り入れる授業を展開できるようにしたい。
我が国の言語文化に関する事項	○市平均を1.8ポイント上回る結果となった。行書についての理解や、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、多くの生徒が正答することができていた。 ●古典分野の古文に関して、現代語訳がある中でも、内容に関する問題で市平均よりも4.8ポイント低い結果であった。普段の学習においても古文に対する苦手意識をもつ生徒は多い。	全体的に見れば、日本の言語文化に関する知識は身に付いている。しかし、古文の内容読解に関しては、正答率が平均以下であった。現代語訳がついても、本文と結び付けることができない。古文に対する苦手意識があるため、ICTなどを活用し、普段の授業で苦手意識をもたせないよう工夫していく必要がある。
話すこと・聞くこと	○市平均を1.9ポイント上回る結果となった。特に聞き取った内容について記述する問題に関しては市平均を10.1ポイント上回っている。聞き取った内容と自分の経験を結び付けて意見をまとめる力が身に付いているように思われる。 ●聞き取った内容に関して他者がまとめたものを選ぶ選択式の問題については、市平均を2.5ポイント下回っていた。	他者がまとめた記述に触れる機会を増やし、問題を解かせる場面を増やしたい。また、作文指導や文章読解の際にも、他者の書いたもの、まとめたものを相互評価する機会を多くもち、価値観を更に広げさせていきたい。
書くこと	○市平均を7.5ポイント上回る結果となった。また、記述式の問題も9.3ポイント上回っている。書くことに関しては抵抗感がなく、作文や字数指定の記述を空欄で終わらせてしまう生徒は少ない。また、指定された注意事項に従って書くこともできている。 ●市の平均正答率を超えているものの「情報」の分野でも記載の通り、数値などの客観的な事実を用いた記述に課題がある。	1～3年生にかけて作文指導をしてきた成果が出ているように思われる。特に、「2段落構成」を守るなどの基本的な事項に関しては約95%の生徒が身に付けている。そのため、記述する内容を更に説得力のあるものにするために、客観的な事実を用いた文章の構成の練習をさせていきたい。
読むこと	○市平均を5.4ポイント上回る結果となった。説明的文章と文学的文章ともに、全問題で平均を超えている。特に、文学的文章を読み、考えを広げ深める問いについては、90%以上が正答している。 ●文学的文章の表現の仕方と説明的文章の論理の進め方の評価に関する問いが約60%と、他と比較して正答率が低かった。	内容に関する問いに関しては答えられる生徒が多い。しかし、構成の仕方や表現などの文章の仕組みについては理解をより深める必要がある。折に触れて内容だけでなく、段落間の繋がりや、言葉の表現方法などを考えさせ、説明する機会をもちたい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	70.9	65.7	56.7
	歴史的分野	65.2	61.7	54.8
	公民的分野	77.4	73.8	73.3
観点別	知識・技能	68.2	64.5	59.5
	思考・判断・表現	73.5	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

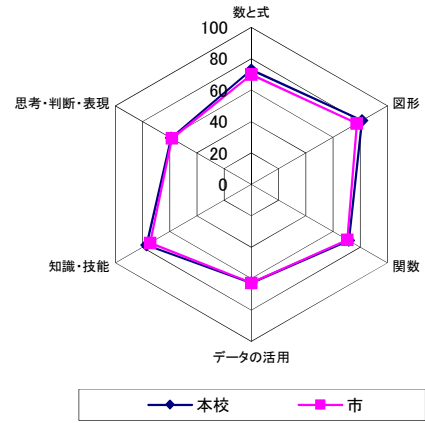
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○市平均よりも5.2ポイント上回った。特に「世界の姿」からのインド洋について解答する問題では、市正答率の6.5ポイント、全国正答率の13.8ポイント上回るとともに、「日本の地域的特色」からの産業の空洞化についての問題では、市正答率の11.6ポイント、全国正答率の28.8ポイント上回るなど高い正答率を得られた問題があった。 ●「日本の地域的特色」からの日本の交通網に関する問題の正答率が、市正答率よりも0.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 全体的に市正答率よりも高い正答率の問題が多かった。また、思考力・判断力・表現力に関する問題でも、市正答率を下回る問題はなかったが、一部問題では市正答率とほぼ同じ正答率の問題もあった。今後はより高い正答率が得られるように、主題や図・グラフの読み取り問題の演習を重ねたい。
歴史的分野	○市正答率よりも3.5ポイント上回った。特に「古代までの日本」からのヤマト王権についての問題では、市正答率の5.7ポイント、全国正答率の17.9ポイント上回るとともに、「近世の日本」からの江戸幕府の大名統制に関する問題では、市正答率の5.4ポイント、全国正答率の19ポイント上回るなど高い正答率を得られた問題があった。 ●「近世の日本」からの琉球王国に関する問題では、市正答率より6.9ポイント、全国正答率よりも1ポイント下回った。	全体的に市正答率より高い正答率の問題が多かった。例えば、歴史の中での政治の流れや仕組みについて高い正答率が得られているようだが、「渡来人」や「琉球王国」など、細部に関する問題では市正答率よりも低い傾向が見られ、知識が十分でないといえる。図や資料の読み取りとともに、歴史についてより多面的・多角的に捉え、理解させるように努めたい。
公民的分野	○市正答率よりも3.6ポイント上回った。特に「人間の尊重と日本国憲法」からの公共の福祉についての問題では、市正答率の5.9ポイント、全国正答率の2ポイント上回った。 ●「人間の尊重と日本国憲法」からの新しい人権についての問題では、市正答率より1.9ポイント、全国正答率の2.3ポイント下回った。	地理的分野や歴史的分野に比べると、市正答率より高かった問題は少なく、上回った割合も低かった。全体的に「人間の尊重と日本国憲法」の内容の理解を深めるための演習問題を行うなど指導したい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.9	69.9	66.4
	図形	81.4	77.4	68.1
	関数	71.6	70.6	60.8
	データの活用	62.8	62.7	54.2
観点別	知識・技能	77.2	74.6	70.3
	思考・判断・表現	59.2	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

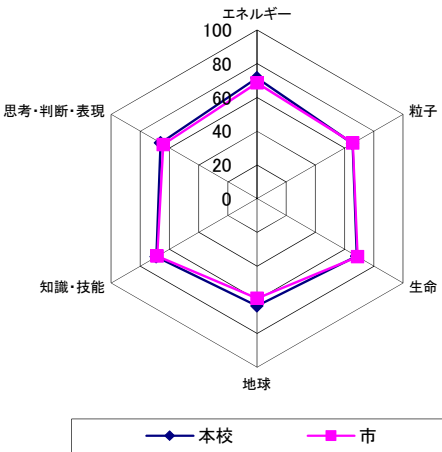
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	領域全体としては、平均正答率が72.9%で、市の平均正答率より3.0ポイント高い。 ○「加減法で連立方程式を解く」では、市の平均より5.6ポイント、全国平均よりも10.2ポイント高い。 ○「 $(x+m)^2=n$ の形の二次方程式を解く」では、市の平均より9.6ポイント高い。 ●「与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式する」では、市の平均より1.8ポイント低いが、全国平均より11.7ポイント高い。 ●「乗法の公式を使って式を簡単にする」では、市の平均より4.3ポイント高いが、全国平均より7.2ポイント低い。	基本的な式の計算では正答率が高く、ほぼ定着しているようである。しかし、乗法の公式や平方根の考えを利用して計算する二次方程式や平方根の入った計算になると正答率が下がる傾向があり、理解が十分な状況である。 今後は、ドリル学習など反復する学習だけでなく、計算方法や計算順を友達に説明させるような時間を設け、筋道を立てた考え方の育成や数学用語を利用した言語活動の向上につなげる授業改善が大切であると考え。また、文章問題を読み取る力も重要であるため、他教科との連携を図っていくことも重要である。
図形	○領域全体としては、平均正答率が81.4%で、市の平均正答率より4.0ポイント高い。 ○「おうぎ形の面積を求める」では、市の平均より9.4ポイント、全国平均より17.8ポイント高い。 ○「平行移動した距離について理解している」の平均正答率は90.9%で、市の平均より6.5ポイント高い。 ○「証明の仮定が問題文のどこの内容を指しているか理解している」では、市の平均より3.9ポイント、全国平均より24.7ポイント高い。 ●「正しい三角形の合同条件を利用し、証明を完成させる」では、市の平均より0.8ポイント低いが全国平均より9.6ポイント高い。	領域のすべての問題で平均正答率が70%を超えており、おおむね理解できている状況であるが、筋道を立てて論理的に考える証明問題や作図においては苦手意識をもつ生徒がいる。自分なりに理解できるまで時間をかけて深く考えようとする生徒の育成が大切であると考え。 今後は、生徒の理解を高めるような学習プリントの作成や筋道を立てて互いに説明するようなグループ学習など、生徒一人一人が分かったと実感できる授業を心掛けていく必要がある。
関数	○領域全体としては、平均正答率が71.6%で、市の平均正答率より1.0ポイント、全国平均より10.8ポイント高い。 ○Xの2乗に比例する関数において「問題の条件に合う点の座標を求める」では、市の平均より7.4ポイント高い。 ○「ある1次関数のx軸、y軸との交点からできる三角形の面積を求める」では、市の平均とほぼ同じだが、全国平均と比較すると24.2ポイント高い。 ●「比例の表からxとyの関係を表した式を選ぶ」では、市の平均より2.3ポイント低いが、全国平均より5.9ポイント高い。 ●「 $y=ax^2$ の式について変化の割合を求める」では、市の平均より1.1ポイント、全国平均より2.9ポイント低い。	関数は4つの領域の中でも特に苦手意識をもつ生徒が多く、「表から関数を予想する」、「1次関数や $y=ax^2$ の関数の違い」、「グラフから読み取る・グラフを利用して考える」など、関数は今まで学んだ知識を様々な場面において活用して考えることが多く、総合的な数学の力を問われる。 今後は、「どのようにして答えを求めればよいのか見通しを立てる」や「どのような過程を経て正解が求められたのか」を友達に説明できるような授業(グループ学習やICT活用)を工夫していく必要がある。生徒同士の学び合いから、問題解決を見通す・解く・グラフを活用する・数学的用语を用いて説明するという学習の流れを身に付けられるように指導していきたい。
データの活用	○領域全体としては、平均正答率が62.8%で、市の平均正答率とほぼ同じであった。 ○「度数折れ線を読み取り、その特徴をもとに説明することができる」では、市の平均より2.5ポイント、全国平均より11.1ポイント高い。 ○「4枚のカードから2枚取り出して2けたの整数をつくるときの確率を求める」では、市の平均より2.0ポイント、全国平均より10.8ポイント高い。 ●「箱ひげ図から読み取れるものを判断する」では、市の平均より3.4ポイント低いが、全国平均より16.3ポイント高い。	すべての学年で最後に学習する単元であり、学年間での繋がりが学習内容のため、くり返し復習する機会が他の領域より少ないのが現状である。また、日常生活において活用する機会が多い内容ではあるが、数学の授業において意図的に取り上げていかなければ定着することが難しい内容でもある。 今後は、数学の授業の問題だけ取り組ませるのではなく、日常生活の中の資料を度数分布表や箱ひげ図に表したり、標本調査を行ったりして、学習の楽しさや活用できるという実感を味わえるような授業を心掛けていきたい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	71.6	68.7	63.6
	粒子	65.5	65.7	64.2
	生命	68.3	68.9	64.4
	地球	63.6	59.2	54.3
観点別	知識・技能	69.0	68.4	64.4
	思考・判断・表現	66.1	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

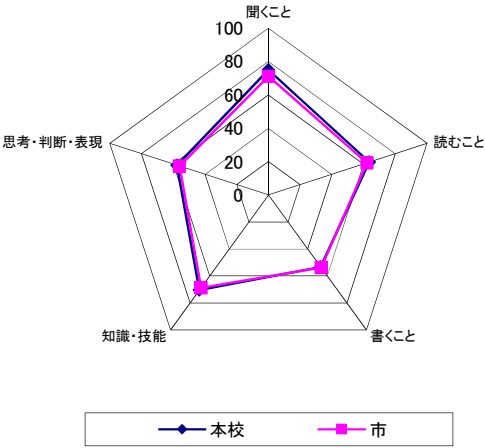
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○音の性質に対する理解度は高く、正答率は79.5%で理解度は市の平均よりも6.4ポイント高かった。 ○電流と磁界に対する理解度は市の平均よりも9.5ポイント高く、正答率81.8%だった。 ●物体のいろいろな運動についての理解度は市の平均よりも2.9ポイント低い正答率77.9%だった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 斜面上での物体の運動を調べるための実験について、班別実験を行い、テープの処理は個人で行わせる回数を増やし、まず自分で考える力を身に付けさせたい。 班別活動では、タブレット端末などを使い、班員の中での話し合い活動を増やして考察の時間も多く取り、理解を深めさせたい。
粒子	○「物質の成り立ち」、「物質の状態変化」では、市の平均を4～6ポイント上回る正答率だった。水の電気分解では94.8%と特に高い正答率であった。 ○化学変化については、正答率94.8%と市の平均の80.1%を14.7ポイント上回る高い理解度であった。 ●「水溶液とイオン」についての「電解質」では、市の正答率より低い、正答率70.1%と8.2ポイント低い正答率だった。	物質の状態変化で、沸騰石を使う理由を指摘する問題についてのみ、正答率が低いのは、コロナ禍で実験の機会が確保できなかったためと考えられるので、実験の機会を確保していきたい。また、「電解質」では実験を通して体験していることが、知識として定着していないので、授業で振り返り、タブレット端末などを活用し、映像資料などで理解を深めるよう指導したい。
生命	○「植物の分類」、「動物のからだのつくりとはたらき」、「生物の成長とふえ方」のすべてについて市の平均と同等程度のポイントでの正答率だった。 ●無性生殖についての正答率は、市の平均を5.4ポイント下回る67.5%であった。	植物や動物の重要な特徴を理解し、実験操作の意味や結果から考える力は身に付いてきたが、重要語句の理解は疎かになっているように感じる。デジタルドリルを繰り返し行い、口頭で何度も授業中に取り上げることで定着させたい。 また、今後も更に科学的なものの見方や考え方を発展させるために、映像資料などを活用し理解を深めさせたい。
地球	○「前線の通過と天気の変化」については、市の平均を3.4～19ポイント上回る正答率だった。特に観測記録についてのポイントは市の平均を19ポイント上回った。 ●「火山」については市の平均を5～10ポイント下回った。特に火山の形からマグマの特徴や噴火の様子を推測する問題の正答率は、市の平均を10ポイント下回る、62.3%だった。	「岩石」については、コロナ禍のため観察などが不足していたために理解度が下がったものと考えられる。 モデル実験や標本観察を取り入れ、また問題演習を繰り返したり、デジタルドリルを取り組ませたりして、理解が定着するよう指導していきたい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	75.1	71.2	65.4
	読むこと	63.5	62.1	56.9
	書くこと	53.2	53.8	42.5
観点別	知識・技能	70.4	68.8	64.7
	思考・判断・表現	57.6	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域としては、市の平均を3.9ポイント上回っている。 ○動物の特徴についての英文を聴き、適切な動物を選ぶ問題では、市の正答率を13ポイント上回った。 ●特に全国の正答率が31.9%と最も低かった。英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で考える問題では、全国の正答率に比べ14.9ポイント上回ったが、市の平均を2.2ポイント下回った。	内容理解に関する問題の正答率が高く、基礎的な語彙が十分に定着していると考えられる。一方、思考・判断の問題では、対話を聞いて場面・状況を適切に理解することが難しい問題もあった。速いスピードでも確実に聞き取ることができるよう、スクリプトなし、スクリプトあり、シャドーイングなどのバリエーションをつけた演習を重ね、発展的な語彙や連語を定着させていく必要がある。
読むこと	○領域としては、市の平均を1.4ポイント上回っている。 ○語彙の知識を問う問題の平均正答率が74%で、全国正答率の平均を6.4ポイント上回った。 ●対話文を読み適切な語を選ぶ現在完了（継続）の理解を問う問題の正答率が63.6%であった。市の正答率を2ポイント上回ったが、全国の正答率を17.8ポイント下回った。	語彙を問う問題での正答率は高い一方、文法の理解を問う問題（現在完了・接続詞・不定詞）の正答率が低かった。複雑化した文法が確実に理解できるよう、演習問題に取り組みせたり、自作の英文を書かせたりする指導をしていく。また、概要を捉え読み取りについて、まとまりのある文章を最初から最後まで読み、特定の単語や文章など一部にとらわれることなく、文と文の関係を考えながら読むことが大切である。手掛かりとなる語句や表現に着目させて読ませることや、図や表を確認しながら読ませる指導をしていく。
書くこと	○領域としては、市の平均を0.6ポイント下回っているが、全国平均を10.7ポイント上回っている。 ○語順の理解を問う並べ替えの問題では、市正答率とほぼ同じであり、未来形be going to～、過去進行形、SV00の文についての理解は高い。 ●先述の語順の理解を問う並べ替えの問題では、形容詞的用法の不定詞の正答率が40.3%であり、他の問題の正答率と比較し、37.6ポイントも開きがあった。	文法によって正答率に差が顕著に現れていた。新しい文法事項を導入する際、2年生で学んだ基礎を確認する指導が有効である。会話の流れから、時制を判断して適切な疑問文を書くことは、情報を捉え整理したり確認したりしながら書き、正確に伝えるために必要となる。言語活動の中で何度も使用することで表現に慣れさせるとともに、実際のコミュニケーションにおいて正しく使えるように指導していく。

宇都宮市立河内中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○自ら考え、自ら学習しようとする意志をもつ生徒を育成する。	○一人1授業公開を実施し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」について、授業実践を重ねる。教科や領域を超えて、職員間で相互に意見交換して授業改善を図る。	○学習内容定着度調査での「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の項目では、肯定的回答率が90.1%で、昨年度よりも8.5ポイント上回った。 ■次年度も一人1授業公開を行い、より多くの教師が互いの授業を参観しやすい雰囲気作りや仕組みなどを検討する。
○言語活動を設けた授業実践によるコミュニケーション能力の育成を通じて、考える力を育む。	○言語活動を取り入れた授業方法や学習形態など、学び合いの工夫に取り組む。具体的には、ICT機器を活用した言語活動や学習に合わせたグルーピングを行い、生徒の学びの推進を図る。	○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の項目では、肯定的回答が84.2%であった。 ■「インターネットを活用するとき、正しいかどうかよく考えて情報を得ており、また、責任をもって情報を発信している。」の項目では、肯定的回答率が宇都宮市の平均正答率を0.7ポイント下回った。情報検索についても指導していく必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

各教科ごとの調査結果では、領域別でも観点別でも多くの項目で宇都宮市の平均正答率を上回った。しかし、理科では「粒子」や「生命」の領域で、英語では「書くこと」の領域で宇都宮市の平均正答率をわずかに下回るなどの課題が見られた。

次年度についても、

- ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践と考える力の育成
 - ・ICT機器を活用した授業展開やその工夫（ICT支援員との連携や校内研修）
- などに重点をおいて、生徒一人ひとりの学力向上を目指して指導していきたい。